

研修のねらい

2025年度を迎え、会員病院の皆様におかれましては、大変厳しい経営状況のなか地域が求める医療を提供するため、日夜、病院運営に努められていることと存じます。

現在の医療体制は、人口減少により患者も就労者も不足する構造的課題に直面しているだけでなく、物価や人件費の上昇等の課題が山積しております。

今後、地域として持続可能であるためには、地域医療の確保は不可欠であり、とりわけ自治体病院には、効率的かつ質の高い医療提供体制を追及していくことが求められています。

このような中、2025年度事務管理者研修会では、基調講演として、当協議会常務理事の掛川市・袋井市病院企業団立中東遠総合医療センター企業長兼院長 宮地正彦 先生より、「自治体病院の統合がもたらした成果と将来への可能性」という演題で、自治体病院のあり方や将来の見通し等についてお話しいたします。

また、午後からは、事務長講演①として、市立横手病院 事務局長 柿崎 正行氏より、「地域の人々に信頼される病院として135年これまでの歩みと今後(仮題)」という演題で、地域における病院の役割、今後に向けたあり方等についてお話しいたします。

次に、事務長講演②として、八尾市立病院 事務局長兼医療技術局次長兼医療情報管理室長補佐 小枝 伸行 氏より、「自治体病院の医療DX～目指すこととその障壁～(仮題)」という演題で、求められる医療のDX化について、医療職としての経験も含めてお話しいたします。

次に、事務長講演③として、砂川市立病院 事務局長 朝日 紀博 氏より、「経営改善と地域連携(仮題)」という演題で、急激に進む二次医療圏の人口減少への対応と周辺の自治体病院との役割分担を含め、大規模病院としての経営改善の取り組みや連携のあり方等についてお話をいただきます。

各施設とも財政事情が厳しいところと存じますが、留まることない研鑽のため、事務長のみならず、管理職員や中堅職員の方々にも是非ご参加いただければと思います。

今回の研修を通じ、ご参加いただける方々にとりまして、一層の意識の向上の機会となることを期待いたします。